

よりの目線

川越まつり 10月15日・16日

多くの人を魅了する「川越まつり」。見方を少し変えると、また違った魅力が現れてきます。今回は、祭りをさまざまな角度から写してみました。

表通り裏通り



まちのできごと
川越市の面積は109.16km²

109パレット



大きな獅子頭で、大きな厄もはらえますように

復興へ、願いを込めて

鯨井の獅子頭は、江戸時代に現在の新潟県の彫刻師が作ったと伝えられています。10月10日、震災からまもなく1年になる小千谷市を、この獅子頭と鯨井自治会の有志76人が訪問しました。災厄をはらうといわれている大きな獅子頭が仮設住宅を巡ると、住民の皆さんの中には手を合わせて拝む姿も。「1日も早く元の生活に戻りたい」。心の声が聞こえてくるようでした。

お母さんも楽しそう

子育てサークル連絡協議会が主催して行われた「第4回ちびっこ交流運動会」。10月13日、御伊勢塚公園に50組の親子が参加して行われました。「楽しみながら、交流を深めてほしいですね」と同協議会代表の鈴木静さん(49歳・的場)。参加したお母さんたちは「友達がたくさんできそうです」「いい息抜きになりました」と笑顔で話していました。



お母さんと一緒に宝探し!



絶えず笑い声に包まれていたいも演芸。150人を超える参加者でにぎわっていました

9里(栗)4里(より)うまい……

10月13日はサツマイモの日。「さつまいも地蔵尊」のある妙善寺(菅原町)で、いもの日まつり実行委員会が主催して「いも供養」が行われました。生芋やサツマイモ商品を奉納し、サツマイモに対する感謝と、健康を祈願。そのあとサツマイモ伝来400年にちなんだ話や、「いも演芸」が行われました。川越ならではの行事を楽しんだあとは、みんなで焼き芋などで食欲の秋も満喫、舌づつみを打っていました。



サツマイモの話に興味津々

なのは、今にも降り出しそうな空だけです。喜多院本殿と多宝塔がライトアップされ、幻想的な雰囲気にも包まれた会場。参加者の皆さんが、喜多院本殿前の階段に並びます。二台のエレクトーンによる演奏に合わせて、合唱は始まりました。歌い終えて、観客の万雷の拍手に包まれたとき、ようやく参加者の皆さんに笑顔が。そして、待っていたかのように、雨が降り出しました。



500人以上の観客を圧倒する、迫力に満ちた合唱

十月八日、未来クラブが主催して行った「第九の夕べin喜多院」。屋外、それも喜多院で、加えてドイツ語でベートーベン作曲の交響曲第九番第四楽章を合唱をするという、前代未聞の試みです。参加者募集の呼びかけに、市内外から百五十人以上が集まりました。屋外で第九の合唱を行うのは、誰もが初めての経験です。声が客席まで届くか、不安がありました。当日の最後の練習で、マイクを使わなくても十分に届くことがわかりました。あと心配

「第九の夕べin喜多院」に参加した皆さん

かわいそ
川越
びと
19